

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 名古屋東急ホテル
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 萩原 喜代子
幹事 渡邊 源市
広報・会報委員長 池森 由幸

No. 42 ローターリーを实践し みんなに豊かな人生を

2013~2014年度 RI会長 ロン D. パートン

今日の例会

第1506回 平成26年 6月24日(火)
最終夜間例会 午後6時 松楓閣

先週の例会

第1505回 平成26年 6月10日(火) 晴
友愛の日
樹木医カシナガ消防団 RCC 活動報告

萩原会長挨拶

皆さま こんにちは!

本日は 本田 圭佑氏のグランプリ受賞 「燃えるメッセージ」を原文のまま ここにご紹介いたします。

主催: 日経ビジネスオンライン
CHANGEMAKERS OF THE YEAR
2014年度グランプリ受賞

本田 圭佑氏

「成功率2割しかない勝負だから、燃える」

サッカー人生を振り返れば、
高校時代も
Jリーグ時代も
エリート選手じゃなかった。
いつも
その他大勢から這い上がった。
だから自分に課していた。
誰よりも高い目標を。
高校で台頭したらJリーグを。
Jリーグに入ったらレギュラーを。
レギュラーになったら優勝を。
日本で台頭したら
ワールドカップ代表を。
代表になったら
ワールドカップで勝つことを。
世界が見えたら
欧州でのプレーを。
欧州チーム入りしたら
初めてのゴールを、
勝利を。
もちろん
すんなり成功するわけがない。
うまくいくのは
10回のうちせいぜい2回。
成功率はたった2割だ。
挑戦の8割は失敗に終わる。
落ち込む。
ぼろぼろになる。
弱い自分が顔を出す。
逃げよう。諦めよう。もうだめだ。
そこまで追いつめられて初めて強い
自分が現れる。
そして思うんだ。
こいつを信じよう。

◆我らの生業

◆ビジター紹介 1名

◆ゲスト紹介

彫刻家 林 遼様(池森君ゲスト)
樹木医カシナガ消防団RCC 隊員 川島 大次様
2014学年度 米山奨学生ドルゴル、デルゲルマーさん

◆出席報告

会員 41 (35) 名 出席 22名
出席率 80.00%
前々回 5 / 27 (修正出席率) 94.44%

渡邊幹事報告

- 1) 次週17日は休会で、次回は24日最終例会です。
午後6時より松楓閣にて開催致します。
昼間の例会はございません。お間違いなきようよろしくお願い致します。
- 2) 1996-1997年度財団奨学生 阿古智子さん
(現在・東京大学大学院 准教授)
5/31付 朝日新聞掲載コラム 紹介
“中国と日本 孤独な知識人と連帯を”

◆井上雅之 前ガバナー補佐よりご挨拶

昨年度ガバナー補佐をやっておりました時には千種RC様よりたくさんの方の激励をいただきまして感謝致しております。

今後とも、生命力あふれる出会いというもの、千種RC様にありますように祈念いたしております。
私は77歳でありますけれど、感動とときめきが大事だと思います。ときめきがあってこそそのロータリーだと思います。ありがとうございました。

失敗を乗り越える道は
たったひとつしかない。
己を頼りに
成功するまでやり続けること。
絶対不可能な「夢」を実現する、
それが唯一の方法。
人生は一度きりだ。
人は必ず死ぬ。
いつ訪れるかわからない「死」という
締め切りを
誰もが抱えている。
ならば、
常に全力を出したほうがいい。
死ぬ瞬間に
後悔しなくていいように。
さらなる目標は無数にある。
欧州でプレーして実感する。
上には上の選手がいる。
まず、彼らを超えよう。
そして、頂点を目指そう。
サッカーは、たかがスポーツだ。
たかがエンタテイメントだ。
ゆえにサッカーは
大きな力を秘めている。
ボールを蹴り合うだけで、
見知らぬ者同士が仲良くなれる。
試合一つで万という人々が動く。
時には戦争すら止めてしまう。
僕にもできるはずだ。
日本代表としてプレーする。
欧州チームでプレーする。
プレーを通じて
社会を変えたい。
日本を変えたい。
世界を変えたい。
そうさ。
夢は、笑っちゃうほど
大きいほうがいい。



◆樹木医カシナガ消防団RCC 活動報告

カシナガ消防団 愛知県樹木医会 川島 大次様

カシナガ消防団 平成 25 年度の
活動報告をさせていただきます。

まずはカシナガ消防団の「カシナガ」
とは、「ブナ科樹木萎凋病」通称
「ナラ枯れ」を引き起こす「カシノナガ
キクイムシ」の「カシナガ」です。

「ナラ枯れ」とはこのカシナガが食料
として持込む菌によって起きる水分スト
レスによりブナ科の樹木(ドングリの木)が枯れてしまう樹木
の伝染病です。

これを何とかできないかと愛知県の樹木医が中心となって発
足したのがカシナガ消防団です。

ナラ枯れは H22 年度をピークに H23 年度、24 年度と被
害が減少しています。



名古屋でも被害は減っていますが、これはナラ枯れによ
って枯れる木が枯れてしまい無くなってしまい、被害が減少
したように見えるだけで、東国山や森林公園ではまだまだ被
害が発生し続けています。

又、愛知県の岡崎、安城、豊川では被害が 24 年度から確
認され、三重県、滋賀県では被害が拡大している場所が多
くあります。虫達が移動したことがわかります。

25 年度は 24 年度まで活動していた知多市の臨済宗妙
心寺派・龍雲山大興寺の社叢より、約 2km 南にあります、
知多市立美和小学校内の雑木林において、総合的防除の
研究が愛知県樹木医会と日本福祉大学や薬剤メーカーを
中心に実施されました。カシナガ消防団もこの研究に参
加しました。

昨年被害木調査を実施したところ、この林の中で 10 本の
被害木を確認しました。そこで 25 年度は大興寺社叢との
林において、ラップ巻防除を改善した、粘着資材による脱出
成虫の捕獲を行う防除方法とおとり木(これはあらかじめ殺
虫剤と殺菌剤を樹幹注入した木)に誘引物質を取り付け、そ
れにより誘引、捕獲(殺虫)防除の二つを実施しました。

まずは、粘着資材による脱出成虫の捕獲研究とは、平成
24 年度に加害された木(木の中にカシノナガキクイムシが
いる木、これを穿入生存木と呼びます)を対象に地際から約
50cm には粘着布、そこから 5m までは粘着紙を粘着面が内
側になるようにらせん状に貼り付けます。これで、今シーズン
羽化する成虫を捕獲いたします。

もう一つの、おとり木と誘引剤による捕獲作戦ですが、お
とり木を作るために薬剤を樹に樹幹注入を行います、25 年度
はその技術に進化が見られました。今までは幹に穴をあけて、
アンプル(200ml のプラスチック製容器)を取り付け、1 週
間程度設置することで、薬剤を樹に吸い込ませていました。
その新しい技術は幹に穴をあけ(ここまでは同じ)、専用の
器具を使い、高濃度に濃縮された薬剤を直接(アンプル等
を使わずに)幹に打ち込みます。

この新しい技術により、穴をあけるのは同じですが、穴の
径が小さくてすむ(樹にダメージが少ない)、アンプルが必要
なくなる(運搬や設置したアンプルの回収が必要なくなる)
等の改善が見られました。

こういった技術改善も樹木医、大学、薬剤メーカーが協働
で活動を継続してきたからこそだと思います。一緒に作業を
しながら、問題点を共有し、改善策を考え、その改善された
ものを試すという事を繰り返すことが、新たな技術を生んだ
のだと思います。

この林でも大興寺に引き続き、愛知県、知多市、森林総合
研究所、薬品メーカー、造園会社そして、千種ロータリーク
ラブの協力を経て、日本福祉大学福田教授と愛知県樹木
医会カシナガ消防団が協働でこの防除作戦が展開され、被
害を食い止めることが出来れば、被害地での防除方法が確
立でき、カシナガ被害の拡大を食い止めることが出来そう
です。

私達消防団の出来ることは非常に小さく微力ですが、こ
れだけの仲間や支援が集まり大きな成果になりつつあります。
このような活動こそがカシナガ消防団の目指すところであり
ます。これからもこのような活動が出来るよう日々努力して参
ります。どうぞ今後もご指導、ご協力よろしくお願い致します。

※ココボックスは次回掲載させていただきます

次回例会 : 平成 26 年 7 月 1 日 (火) 3F 錦の間
新・旧会長挨拶 前年度皆出席者表彰